2024年度第１回ＮＰＯ法人共同保存図書館・多摩理事会　議事録

１　日 時：2024 年 4 月 7 日（日） 午後 8 時 00 分から 9 時 30 分
２　方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議
３　議決権のある理事：9 名
出席者：座間直壯、雨谷逸枝、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡
欠席者：清田義昭、小池信彦、齊藤誠一、保坂一房
事務局員の参加：なし

４　議事
（１） 第１号議案　会員の動向について
【報告】
・４月１日現在
・正会員：個人 81、団体 2（計 83）　・賛助会員：個人 26、団体 2（計 28）合計：個人 107、団体 4（総合計 111 名・団体）
【協議】
・会員に、転居先不明の方が 1 名、病が進み『通信』等が読めないと聞く方が 1 名いる。状況を考慮し、5 月総会後に 2 人の退会処理を行う。

（２）第２号議案「2024 年度通常総会議案書」案の協議について【説明・協議】
【議長】
・第一号議案の文案は前回の理事会での指摘で修正されている。これで確定したい。
・本日、事務局から提案が出ているのは第三号議案の案文と第一号議案の案文の一部なので、まず第三号議案の方から協議する。
・案文を必要に応じて事務局に説明してもらい、協議、確認していく。
(1)　第三号議案の案文の協議
◎基本方針
【事務局説明】
・2001 年の「東京都立図書館あり方検討委員会」の「中間のまとめ」以降、都立図書館は、蔵書保存は原則「30 年の有期限」で、それ以上の保存は個々に見直す方針を発表し、複本の大量除籍を進めた。多摩地域の公立図書館や住民団体はそれを批判しながら、自分たちでできることを行ってきた。
・近年の多摩地域の図書館でのＴＡＭＡＬＡＳ活用調査の結果から見ると、多摩地域ではできる限りの分担保存が定着していることが確認できた。
・全国公共図書館協議会の調査からは、県立図書館が主導して県域の共同保存を図ろうという動きが見えてくる。都立図書館は周りを見て現行方針の見直しを検討してほしい。
・昨年度８月に実施した「多摩デポ講座」の「都立中央図書館の書庫見学と保存方針を聞く会」

で、「30 年有期保存」方針による毎年度の除籍が、実際には長い間実施されていないことが明らかになった。一方で、多摩地域の館長協議会（館長会）では、新たな「除籍資料ガイドライン」が承認され、地域内での共同保存の原則を再確認した。多摩デポは新たな取り組みとして、多摩地域ライブラリアン講座を始めた。

・「基本方針」には、以上のようなこれまでの経緯を振り返り、多摩デポは次のステップとして、「館長会と連携して、都立図書館へ共同保存についての話し合いを提案することが課題になる」と提案している。

・昨年度の総会記念講演会で、国立国会図書館（ＮＤＬ）の蔵書デジタル化事業について、図書では2000年近くの発行分まで着実に進み、絶版なら登録した個人へも送信して提供する形が整いつつある状況を知った。一方、多摩デポでは、ＴＡＭＡＬＡＳの活用や、ＩＳＢＮ未記載の蔵書目録へのＩＳＢＮ推定と検証作業を通じて、ＮＤＬ未所蔵でありながら公立図書館では所蔵する図書の存在があることを知り、ＮＤＬの書誌の間違いを発見することもあった。多摩デポでは、ＮＤＬに対してどう連携や提案を行うかも課題になる。

【協議】

・盛り込む内容はこれでいいが、「基本方針」案文が長い。これまでの経過を書いた前半部分をコンパクトにしてはどうか。

・都立図書館の保存があてにならない中、多摩地域の図書館で希少な図書を残しあう動きはかなり浸透してきた。その現状認識の上に立って、都立と多摩地域公立図書館との共同保存についての対話の開始を目指していきたいと掲げる。

・館長会と共に都立図書館との話し合いを起こすことが必要とは、近年の議案書では明記していなかった。この間の経過の記述は整理・縮小して、この課題を分かりやすく書いてほしい。

◎１　資料・情報の収集・整理、保存、提供事業

(1) バーチャル共同保存図書館推進事業

(2) 資料保存・提供のセーフティネットの確保

【協議】

・違和感はない。これで良い。

(3) 図書館資料の里親探し

【協議】

・現在は担当一人が丁寧に調査して対応しているが、負担が大きい。多摩地域の図書館に認知度の高い事業なので、事務局で共有するマニュアルを作り、一度に大量の「里親本」提供の申し出があっても対応できるようにしていきたい。

◎２　情報・読書・図書館に関する講座・講演会の企画運営事業

(1) 総会記念講演会

【説明】

・講演者のＮＤＬ元副館長の田中久徳氏から、ＮＤＬの行う事業や立場を紹介してもらいながら、それを踏まえた公共図書館への提言をしていただく。

【協議】

・それで良い。

(2) 多摩デポ講座

【説明】

・実施を続けていくが、現役職員の参加が少なくなっており、企画ややり方は従来どおりでいいのか、見直していきたい。

【協議】

・見学会もいいが、現役に役に立つような学習の機会を組んでいければいい。

・保存とは直接は繋がらないように見えても、将来的には保存に繋がっていくような考え方を提案する。

・コロナ禍の中、一昨年度は、保坂理事が配信による総会講演を行い、たましん歴史資料室では所蔵資料のデジタル化を進めホームページでそれを発信していることを紹介された。では、多摩地域の公立図書館のデジタル化の進行状況はどうか。資料デジタル化のことを考える多摩デポ講座を職員向けにやれるといい。どういう方法でやればいいか工夫がいるが。

・デジタル化は、それぞれの図書館が単独の工夫で行っているのが現状かと思う。事例を集め現状を俯瞰して、多摩地域の各図書館で何ができるかというような議論の場ができると、面白くなっていくのではないか。

・「図書館のデジタル化」のことは、役員内で企画を考える心覚えにしておくのか、議案書に具体的にこういう講座を組みたいと入れられるのか。

・多摩デポ講座は、職員だけでなく市民も対象に、広くいろんな分野を取り上げる性格だった。実践講座との棲み分けをどうするかという議論もある。

・『多摩デポ通信』は年に４回出すので、発行のたびに講座を案内できるようにしたい。講座を開催すれば、人数の多い少ないはあっても具体的に人が集まるわけで、来た人に感想の執筆を頼み、できれば会員になってほしいと言える。そんな出会いの場を作れたらいいと思う。

(3) 多摩デポ実践講座

【説明】

・多摩デポ講座はそれぞれのテーマの入門のような印象。一方でライブラリアン講座は主に職員向けの有料制の連続講座。それに対し、多摩デポ実践講座は職員向けに限定している。これは、以前はいろんな形であった職員同士の勉強会のようにできれば、継続していけるのではないかと考えている。

・資料デジタル化が始まりつつあるが、図書館によりレベルも手法もまちまち。市販パッケージを入れるだけでデジタル化と言っているところもある。図書館も職員も迷っていると思う。デジタル化について、業者ではないアドバイスができる講座があればいいという思いがある。詳しい経験者がいれば、その人の話を聞く形でもいいかと思う。

(4) 多摩地域ライブラリアン講座

【説明】

・第 1 回のやり方を踏襲し、大きく変えずに２回目を実施したい。今回も会員外の講師へは講師料は支出する予定で。前回程度の講師料の枠の中で続けられるといい。

・前回は開始が遅かったが、できれば12月一杯には終われるような日程が組めるといいと考えている。現状の課題は、プログラム作りや講師依頼より、受講者が集まるかということ。

(5) 会員の意見交換会の開催

(6) 東京都多摩地域公立図書館大会への協力・参加

(7) 図書館関係団体の集会、研究会等への参加

◎３　図書館業務にかかわる調査研究事業

＜ISBN遡及入力作業の研究事業＞

【説明】

・手間はかかるが、作業をやったなりの成果は出ており、続けていきたい。

＜「多摩デポ統合検索システム」の活用方法と書誌統合の研究事業＞

【説明】

・以前から研究している「多摩デポ統合検索」を、職員が業務の中で使えるところまで持っていきたい。

・ＴＡＭＡＬＡＳは普及したが、地域資料や行政資料はＩＳＢＮ未記載のことが多く、各図書館の目録記述が割れがちである。また1980年代以前の発行物にはそもそもＩＳＢＮはない。これらの同定のためには、「多摩デポ統合検索」が必要。ただ、いろいろな課題を同時にやっている中で、これにどれだけ注力できるかは難しい。

＜県域単位の共同保存の取組状況についての全国の調査＞

【説明】

・全国公共図書館協議会による調査の後は、多摩デポが全国の都道府県立図書館のホームページから継続的に動向を調べている形になっている。

・共同保存に取り組む県立図書館は少しずつ増えていることは評価できる。しかし踏み込んで実態をみると、市町村立図書館がどれだけ協力しているか、提唱する県の側に受け入れる書庫の能力がどれだけあるか、どんな構想があるか。県ごとに課題も多そうである。

◎４　印刷物の発行等による普及啓発事業

(1) 機関紙およびパンフレットの発行

(2) 共同保存図書館事業にかかわる刊行物の発行

【説明】

・予算の裏付けがどれだけ持てるか厳しいが、昨年度はブックレット発行を見送ったこともあり、新年度は１冊作ることを提案している。

(3) ホームページの維持

◎５　メーリングリストの活用

◎６　会員の拡大

＜２＞第二号議案の骨子の協議

【説明】

・本日用意できた部分まで説明する。決算で、報告できるのはまず収益部分。会費収入は予

算より若干少なかったが 49 万 2 千円、20 万円と計上した寄付金が、会員から約 28 万、会員外の方から約 3 万。計 31 万 2 千 300 円あり、収入面はほぼ達成された。

・経常費用では、事業費のライブラリアン講座で支出が超過した。管理費では、事務所当番の頑張りで、値上げを想定した予算より大幅に少ない水道光熱費の支出だった。全体としては寄付金をたくさんいただいたおかげでなんとか帳尻があったと言える。

・ブックレット売上による納税は、不要だった。

・提案できていない予算（第四号議案）は、今日の第三号議案の協議で内容が決まったので、その方針の下に組み立て提案する。

【議長】

・事務局から提案された議題は終了した。近いうちにもう一回理事会を開く。次回の議題は、議案書では第二号議案、第四号議案を協議し決定すること。また総会までのスケジュールを協議する。今日課題として残った第三号議案の基本方針の修正は、理事会開催の前に事務局から案文を送ってもらい、理事会で最終点検する。

5　議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、雨谷理事、田中理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024 年 4 月 7 日

議長　　座間直壮

議事録署名人　　雨谷逸枝

議事録署名人　　田中ヒロ